

令和5年度 学校総合評価

○ 今年度の重点目標に対する総合評価

重点課題は、学校の現状を踏まえ5つの分掌でそれぞれ設定し、取組みを行ってきた。各重点課題についての取組状況や評価の詳細は、アクションプランに示したとおりである。今後、さらなる指導の改善や生徒の意欲向上を目指して努力していきたい。

本校が作成し、掲げている「UDGs（人生を変えるための17の目標）」の取組みを推進するため、生徒にUDGsを意識させて授業を行った教員の割合、伸ばしたい力が向上したと感じた項目が3つ以上ある生徒の割合を目標に掲げた。本校はUDGsの取組み2年目であり、目標をほぼ達成できた。

年間の無遅刻生徒の割合向上については、生徒指導部の登校指導に加えて、時間ぎりぎりに登校する生徒への声掛けや、集会ごとに無遅刻生徒の割合を知らせることや、2学期終業式に無遅刻生徒の割合が80%を下回ったことを伝えるなど、時間厳守の大切さを話すなど取組みを進めてきたが、今年度は目標を達成することができなかった。

就職支援、自分の進路決定先に納得している生徒の達成度については、今年度も好調な求人状況に支えられ、目標を達成できた。

部活動については、部加入率、積極的に活動している割合とも掲げた目標を下回り、昨年同様悪い結果となった。中学校では部活動加入が任意になっており、今般このような目標設定自体がなじまなく、目標そのものを変更したい。

生徒の朝食摂取率については、目標を達成できなかった。スマートフォンやゲーム等の過剰な利用など生活習慣の乱れのある生徒の増加や家庭の指導力低下など課題がある。

○ 次年度へ向けての課題と方策

UDGsの活用については、教員の授業での実践が浸透しきているが、伸びる項目と伸ばしにくい項目に開きが出てきている。今後もUDGsを取り入れた授業の研修会やアンケート結果の情報共有を行うなど、身に付けた資質・能力を発揮できる場面設定・伸びを実感できる課題設定等、効果的な指導法を研究していきたい。

資格取得についても、生徒がより上位級の検定や国家資格などに積極的に挑戦するよう、UDGsを活用した授業の中での動機付けや主体性を育む指導を進めていきたい。

無遅刻生徒の割合向上については、年々問題を抱える生徒が増えていることや、これまでのコロナ禍で生徒・家庭の意識が変化していることもあり、高校生活の中で重要な項目ではあるが、今後は目標の設定を変えていく必要があると考えている。

進路指導については、求人状況の様子に関わらず教員による丁寧な指導を続けていき、今後も生徒の満足度を高く維持できるように努めたい。

特別活動については、これまでの部活動加入率の向上等ではなく、部活動活性化のための取組みや生徒が行事で活躍するための方策などの目標に変更していく。

朝食摂取率の維持向上では、基本的生活習慣の維持は高校生活の重要な側面であるため、今後も取組みを継続していく。達成目標の再検討を含めて、より生徒の実情にあった目標設定が必要であると考える。学校評議員からは、「家庭の協力も必要」、「プラン自体が時代に沿ってない」、「UDGsの項目をピックアップした目標設定をする」などの助言をいただいております、生徒の生活習慣向上につながるよう、学校全体で連携して進めていきたい。

8 学校アクションプラン

令和5年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	生徒が主体的・対話的に参加し学ぶことができる授業を目指した互見授業・教科別校内研修会の実施と育成すべき資質・能力の伸長を図る授業の工夫		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・授業をはじめとした学習活動に対し目的意識や基礎的な学力がやや不足しているが、UDGs（人生を変えるための17の目標）の取組みに興味を示し、自己の成長を望む生徒が多くみられる。 ・学校生活では、挨拶や清掃活動等をきちんと行うことができるが、授業や実習では、指示を待つ傾向が強く、自分で考えたり、自ら解決したりしようとする態度が不足している。将来、自己課題を解決し、やりたいことが実現できる資質・能力を育成する必要がある。 		
達成目標	①生徒にUDGsを意識させて授業を行った教員の割合	②UDGsの内、伸ばしたい力が向上したと感じた項目が3つ以上ある生徒の割合	③ICTを活用した指導力向上及び教育内容の充実を目的とした互見授業を実施し、教科別校内研修会に参加した教員の割合
	70%以上	70%以上	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「教科横断しながら育成を目指す資質・能力」の明確化と共有を図る。 ・UDGsをきっかけとした授業の実践事例を収集し、情報交換・情報共有を積極的に行う。 ・各教科の知識・技能だけでなく、『考え、判断する活動』や『主体的に取り組む活動』を取り入れることで、育成すべき資質・能力の伸長を図る。 ・タブレット端末の効果的な活用方法や可能性を探り、その利用を推進する。 ・互見授業の開催・参加がしやすい環境を作り、多くの教員が研修会に参加するよう各教科へ働きかけを行う。 		
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・UDGsを取り入れた授業実践を行った教員の割合 73.8% ・UDGsの内、3つ以上の項目が向上したと感じた生徒の割合 60.8% ・教科別研修会に参加した教員の割合 91.6% 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・UDGsを使った資質・能力の育成について共通理解を図るとともに、実践事例の情報交換、生徒アンケートによる実態把握と授業の改善に努めた。 ・『考え、判断する活動』や『主体的に取り組む活動』を取り入れたり、単元ごと・学期ごとの振り返りを行ったりして、育成すべき資質・能力の伸長を図った。 ・互見授業の集中実施期間を11/6～10に設定し、生徒がICTを活用した授業を中心に授業を公開し、教科別研修会を実施した。 		
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの教科でUDGsを使った授業を実践し、目標を達成できた。 ・3つ以上の項目が向上したと感じた生徒の割合は70%には達しなかった。身に付けた資質・能力を発揮する場面が特定の項目に偏っていたため、複数の項目に対しての伸びが実感できなかったのではないかと考える。 ・互見授業及び教科別研修会を積極的に実施し、目標を達成できた。 	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「複数の項目に対しての実感ができない」ということは、客観的には複数の項目が伸びていると評価できていたのかが気になった。 ・UDGsを取り入れた授業実践が難しい要因を探るとともに、UDGsの定着と継続的な指導により、生徒が向上を実感できるようにして欲しい。 		
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・UDGsを取り入れた授業の研修会やアンケート結果の情報共有を行い、身に付けた資質・能力を発揮できる場面設定・伸びを実感できる課題設定等、効果的な指導法を更に検討する必要がある。 		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和5年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の確立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識が希薄なため、安易に遅刻をする生徒がいる。 ・充実した学校生活を送るために、遅刻の防止を中心とした基本的な生活習慣の確立の必要がある。 ・体調不良での遅刻が多く、体調管理の必要がある。 ・過去の遅刻回数はR2年度174回、R3年度199回、R4年度194回であった。 ・特定の生徒が事情により複数回の遅刻をしているため、指導方法の改善が必要である。 (5回以上遅刻者が6名で、総遅刻回数の34%(65回)を占めている) ・無遅刻生徒の割合が約80%、1回までの遅刻の生徒の割合が約90%である。 <p><参考>R4年度の無遅刻生徒の割合 (79.6%)</p>	
達成目標	年間の無遅刻生徒の割合 (通院等を除く)	
	80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による登校指導やクラス別遅刻者統計を集計して、生徒にアクションプランの実現を呼びかける。 ・遅刻しないための事前指導を充実させる。 ・遅刻した生徒には、その都度面談し、遅刻の原因を考えさせ解消するよう指導する。 ・度重なる生徒には、学年・学科と協力して個別指導を行う。 ・学年と協力し、朝学習への積極的な参加を促す。 ・食事、睡眠を正しくとり、体調管理の徹底を呼び掛ける。 	
達 成 度	年間の無遅刻生徒の割合 (通院等を除く) 77.6% (1月31日現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部員で毎朝登校指導を実施した。また、多くの教職員の協力を得て、さわやか運動及びあいさつ週間で登校指導を実施した。 ・朝学習開始時刻(8:30)ギリギリに登校する生徒に声かけをしてきた。 ・朝学習開始時刻を過ぎて登校する生徒には、朝学習に間に合うように話をするなどして改善を促した。 ・遅刻者には「入室許可証」を発行し、その場で遅刻理由を確認して生活指導を行った。併せて、その都度、遅刻者と話をして、現状を確認し改善策を考えさせた。 ・遅刻者には翌朝のあいさつ活動等を課して、本人の自覚を促した。 ・終業式には無遅刻生徒の割合を知らせた。2学期終業式には、無遅刻生徒の割合が80%を下回ったことを伝え、時間厳守の大切さを話した。 	
評 価	D	・1月31日現在、年間無遅刻者生徒割合は77.6%とすでに目標を下回っている。(総遅刻回数は224回であり、遅刻の多い生徒6名で151回となっている。)
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプランの5(保健部)と連動してやっていくのが良いのでは。その上で、実態に沿ったものにしていけば良いと思う。 ・教員が価値観を変える時代がきていると感じるし、評価は気にしなくても良いのではないか。UDGsと関連できないか。 	
次年度に向けての課題	遅刻を経験した生徒は69名であり22.4%である。遅刻で一番多い理由が体調で49.4%であり、約半数を占めている。この4年間、現在のアクションプランで実施してきたが、ここ数年、体調不良の内容が多岐にわたっており、一律に遅刻生徒として取り扱うことが難しいと感じている。学校規模が小さくなっており生徒自体も変化してきていることから、次年度はアクションプランの見直しを検討する必要があると考える。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和5年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援											
重点課題	進路意識の高揚											
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来や進路に対する認識が甘く、職業観・勤労観に乏しい生徒がみられる。 ・進路の選択決定において、継続的に取り組む態度に欠け、十分な対策を行わず就職試験や入学試験に臨む者がいる。 ・進学者の中に、目的が明確ではない生徒や基礎学力の低い生徒がいる。 ・3学年125名の内、83名が就職を希望している。 											
達成目標	自分の進路決定先に納得している生徒（学年末にアンケート調査を行う）の割合 92%以上（不満を感じる生徒10人未満）											
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや応募前職場見学会への参加や進路講話などを積極的に推進し、生徒の進路意識を高める。 ・学年や学科と連携し、面接指導や進学補習の充実を図る。 ・面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導を行う。 ・入れる会社・学校からぜひ入りたい会社・学校を考え、各自に合った進路希望実現に向けて指導にあたる。 											
達 成 度	<p>進路指導アンケート「自分の進路決定先に納得をしていますか。」との問いに</p> <table border="0"> <tr> <td>「ア 十分納得している。」</td> <td>97名</td> </tr> <tr> <td>「イ どちらかといえば納得している。」</td> <td>21名</td> </tr> <tr> <td>「ウ どちらかというとな不満である。」</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>「エ 全く不満である。」</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>「オ その他」</td> <td>0名</td> </tr> </table> <p>アとイを回答した生徒の割合 98.3% 125名中120名の回答（1月22日現在）</p>		「ア 十分納得している。」	97名	「イ どちらかといえば納得している。」	21名	「ウ どちらかというとな不満である。」	2名	「エ 全く不満である。」	0名	「オ その他」	0名
「ア 十分納得している。」	97名											
「イ どちらかといえば納得している。」	21名											
「ウ どちらかというとな不満である。」	2名											
「エ 全く不満である。」	0名											
「オ その他」	0名											
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路オリエンテーション（全学年）、 ・進路ガイダンス（全学年） ・進路関連検査（全学年） ・本校会場の企業説明会（6月17日 参加企業数44社） ・インターンシップ（7月 2年生全員） ・卒業生講話（1年：2月、2年：3月） ・応募前職場見学、オープンキャンパスへの参加（3年） ・就職、進学に向けての準備と指導（3年：面接練習、作文・小論文指導、進学補習） 											
評 価	A	就職において、大手中小を問わず求人数が増加、本校の卒業予定者数が減少したため県内企業だけでも求人倍率が8倍程度となった。多くの生徒が第1希望企業を受験し、1次応募で全員が内定をいただくことができた。このことから進路先に納得している生徒の割合が高くなったと考えられる。										
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での教育のほか、家庭の協力も必要なものだと感じる。家庭教育への働きかけが重要である。 ・さらに就職後の定着率を上げるため、「入社して最終的には何をしたいか」を明確にもたせて、就職先を決定してほしい。 											
次年度に向けての課題	良好な結果であった理由は潤沢な求人状況であり、大多数の生徒が第一希望の就職希望先に選考試験を受けに行き1次選考に臨んだ生徒全員が内定をいただいたためである。以降も求人状況によらず高い満足度を得るため、家庭と連携を強めていく必要がある。											

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和5年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	学校生活	
重点課題	規則正しい生活リズムの定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活・睡眠・運動等、生活習慣に問題をもって入学してくる生徒が多い。 ・特に夜型の生活や食習慣の偏りが、学習意欲の低下や肥満等、心身の健康と関連し、学校生活に悪影響を及ぼしている。 	
達成目標	朝食摂取率（第2回調査（11月）における摂取率） 95%以上を維持する。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣調査を年2回実施し、各自の生活を振り返らせる。 ・問題があると考えられる生徒には、個別指導を実施する。 ・担任や部顧問との連携を図り、保護者会等で保護者に協力をお願いする。 ・外部講師を招き、集団保健指導を実施する。 	
達 成 度	朝食摂取率（ほとんど毎日） 94%（1学期）→ 94%（2学期） 参考 昨年度朝食摂取率 93%（1学期）→ 95.0%（2学期）	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣調査を6月と12月に実施し、生徒自身の生活習慣について見つめさせる機会を設けた。朝食の摂取状況が良くなかった10名には保健部による個別指導を実施しその理由に応じた対策を生徒と考えた。 ・個別指導をした生徒にはその後も声掛けをし、生徒と話す良いきっかけになった。 ・1年生を対象にした「健康を考える日」に、食事の大切さについてのオンライン講演会を実施した。 ・入学式の資料として保護者向けに食や生活習慣に関する資料を配布した。 	
評 価	D	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を全く食べなかった生徒の数は半減した。しかし、さらに踏み込んでデータを分析すると、週4・5回（8%→12%）、週1～3回（4%→5%）と微増したものの、「毎日食べた」は86%→82%と大きく減少した。 ・就寝時間に関しても24時以降就寝する生徒が23%から25%と増加。 ・スマホ等使用時間に関しては、3時間程度が31%→36%。5時間以上が14%→22%と大きく増加した。 ・以上のことから、朝食摂取率減少の背景には、生活習慣の乱れがあると思われる。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の協力も必要だと考える。 ・プラン自体が時代に沿っていないのではないか。来年度アクションプランを設定する際、UDGsの項目をピックアップすれば目標設定をしやすいのではないか。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・達成目標の再検討を含めて、より生徒の実情にあった目標設定が必要である。 ・生活習慣全体の向上につながるよう、生徒指導部とも相談・連携して進めていきたい。 	

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）